

NAFTA と新興国通貨の指標

FOMC や日銀の政策決定会合が終わったら、今度は米国の大統領選挙だ。為替市場に材料は事欠かない。それがよく吟味されたものでもなくてもレートが動けば市場参加者は対応を迫られる。

クリントンとトランプの第一回目の討論はクリントン優勢との評価だが、メキシコペソが大きく買われた。1日で2%以上だ。

トランプをメキシコに招き大統領とのミーティングをアレンジした財務大臣は辞任を余儀なくされたが、トランプはメキシコの政治ばかりでなく、通貨にも大いに影響を与えている。

近頃のメキシコペソはトランプの大統領選挙での支持率との関係が深い通貨だ。圧倒的に優勢だったクリントンとの支持率の乖離が狭まるにつれてペソは下落してきた。5月からは14%も下落している。

これは米国との貿易に大いに依存する経済構造を持つメキシコが、トランプ大統領の暁には大きな損害を被ると認識されているからだ。トランプはメキシコからの輸入品に関税を掛けることを主張するなど NAFTA(北米自由貿易協定)を破棄しかねない言動を繰り返している。

NAFTA と言えば、その為替レートへの影響はそれほど単純ではない。その発効時(90年代半ば)メキシコペソは経済危機で売られ、ドルが買われた。これは一般的な反応だが、その後 NAFTA の売りとの捉え方に変わり、世界の市場でドルも売られることになった。カナダドルも売られた。そして円は買われた。

メキシコペソ対ドルに留まっていた局地的な市場の動きが NAFTA を通して世界的な為替レートの関係に影響を及ぼすようになったのだ。

現在メキシコペソは世界で10番目に取引の多い通貨だ。新興国通貨の中では人民元に次いで2番目だ。人民元は管理変動相場制で、他の新興国通貨でのリスクをヘッジする代替通貨の役割を果たすのにはふさわしくない。そのためメキシコペソがその役割を担っている。そうした取引もメキシコペソのレートに反映している。

その点ではメキシコペソは新興国通貨の指標とも言え、ペソの動きが他の新興国通貨の前兆になることもある。

昨日はペソの他に南アランドや韓国ウォンの買いが目立った。

NAFTA と新興国通貨の代替通貨の二つの要素を持つメキシコペソはトランプが勢いを保つ限り、目が離せない。